

「野辺山の戦争・開拓資料室」について

南牧村の方々と学生の協力のもと、2017年8月9日に開設できました。

展示について

AFC 野辺山ステーションは、太平洋戦争末期に勉強中の二十歳の大学生が招集され、飛行隊として陸軍と海軍がそれぞれ特攻の訓練をした場所です。なぜ野辺山が砲兵隊やグライダーの訓練場になったのか、なぜ学生が招集されなければならなかったのか、なぜグライダーの訓練が必要だったのか、そのとき、周囲の村に何があったのでしょうか？

こうした近現代の隠れた歴史の一部を調べた展示です。戦前の軍隊の物品や写真で解説しています。

対象

この展示は、大学生、市民、中学生以上の学生が対象です。地域を知ることや、平和の維持について考える機会になります。

見学を希望する方、新たな資料のご提供いただける方へ

この展示室を見学したい方や新たな資料を提供いただける方は、信大農学部附属施設担当事務(0265-77-1318)まで事前にご連絡ください。

みどころ

戦前の資料

この場所は戦前「秘密軍事基地」だったため、現存する資料は比較的少ないのですが、地元の方から寄付された昭和17年のグライダー訓練写真、航空隊の腹帯、海軍営内靴や熊谷少年飛行隊の歌など。初級、中級滑空機、中間型練習機から戦闘機、日本初のロケット戦闘機などへの道を見ることができるよう工夫しました。

学内で発見された貴重な航空隊員の認識票、陸軍の統制陶器、陸軍第51部隊(砲兵隊)の箱などがあります。学徒動員された大学生が航空兵として訓練された兵舎(後の信州大学の農場)の詳細な地図や写真、野辺山駅の横にあった陸軍の平面図、昭和13年の極東地勢図、学徒動員の法的根拠とされた「国家総動員法」の写しや、「軍紀は服従にあり」と定めた「陣中要務令」を展示しています。昭和13年の17年の「文部省初級中級滑空機訓練場」の開設、そして昭和20年の終戦時まで両軍合わせて2000人以上の学徒を戦場に送り出した実態の一部を知ることができます。航空機から軍事施設と判明しないように作られた建築物であることがわかります。

陸軍熊谷航空隊と海軍三重航空隊の特攻訓練基地の資料だけでなく、陸軍の兵舎があった海ノ口で最近見つかった陸軍防空監視哨の戦前の写真や現地の現在の姿なども展示しました。

馬産地、航空隊グライダー訓練基地、野菜生産地は、地理的に適していたためにできたもので、地形を見るためのジオラマなども展示してあります。

戦後開拓関係や戦後の農学教育の資料

また、農業関係の展示もあります。昭和15年満蒙開拓のために、農学生向けに作られた綿花の品種標本、野辺山の定点観測用の気象観測装置、戦後の農学や高冷地農業関係の展示があります。戦後の高原開拓に用いられた高冷地野菜の種子、綿羊や木綿の糸繰り機、昭和27年開学時の野辺山高原の気象観測野帳があります。また、戦後の農学部開設当初の白倉徳明教授の麦類調査野帳、野辺山の土壌調査の標本や器具、東西冷戦時代のミチューリン研究会(1巻1号)、クルミやハシバミなどの高冷地の代表的な硬果類の標本、パンコムギ祖先種の種子の現物を示した講義資料、畑地肥料の標本、全国のソバ在来品種の現物(1980年)、信州大学で力を入れた解剖学に関する標本、昆虫学や植物学の教育・調査に用いられた道具などです。昭和の大学生のアイドル松田聖子さんの1982年頃のポスターも見ることができます。

(文責: 農学部・教授 井上直人、2017.11/9)

展示室の概観



図1 海軍三重航空隊野辺山分遣隊や陸軍熊谷航空隊が用いた戦前の^{すがたみ}姿見(鏡)や実際のグライダー訓練の写真



図2 海軍三重航空隊野辺山分遣隊や
陸軍第51部隊(砲兵隊)や陸軍熊谷航空隊の基地などの地図



図3 野辺山の施設の構造と詳細な写真
通称「農場」として秘密にされた基地の姿



図4 農業関係の資料

南牧村の植物資源、明治初期の川上村周辺の特徴や野菜の古典的な品種、土壌、肥料など

見学のみなさんへ

小学生、中学生、兵士、農民、市民の生活や社会のすべてが戦争を中心に動いていた1945年以前の日本・野辺山の歴史を知り、「美化せず」、かといって「バカにせず」、「知ろう」、みなで調査してゆこう。